

ベトナム地域研究のための基本文献

<事典>

- 石井米雄監修、桜井由躬雄・桃木至朗編『[ベトナムの事典](#)』同朋社、1999年
ちょっと情報が古くなってしまったが、いろいろと調べるのに便利な本。

<入門、概説書>

- 今井昭夫・岩井美佐紀編著『[現代ベトナムを知るための60章](#)』第2版、明石書店、2012年
文字通り、現代ベトナムを知るための60項目を各分野でバランスよく厳選して解説。巻末のベトナム関係文献目録も活用してほしい。

<通史>

- 松本信広『[ベトナム民族小史](#)』岩波新書、1969年
かなり古い文献ではあるが、ベトナム通史をコンパクトに知るのには手ごろな文献。民族学的記述にも触れることができる。
- 山本達郎編『[ベトナム中国関係史 一曲氏の抬頭から清仏戦争まで](#)』山川出版社、1975年
入門書、概説書の類ではなく、まさに専門書ではあるが、長い歴史をもつ中越関係史を知る上では必須の本。巻末の年表や系図も有用。
- 古田元夫『[ベトナムの世界史 中華世界から東南アジア世界へ](#)』東京大学出版会、1995年
ベトナムの歴史を周辺地域との関わりから世界史的に捉えようとした文献。
- ファン・ゴク・リエン監修、今井昭夫監訳『[ベトナムの歴史 ーベトナム中学校歴史教科書](#)』明石書店、2008年
ベトナムの中学校の歴史教科書を翻訳したもの。ベトナム側の歴史意識を知るのに好適。

<近現代史>

- 桜井由躬雄・石澤良昭『[東南アジア現代史Ⅲ ヴェトナム・カンボジア・ラオス](#)』山川出版社、1977年
植民地期からベトナム戦争終結までの時期を扱った歴史叙述の最も代表的なもの。
- バーナード・フォール『[二つのベトナム](#)』毎日新聞社、1966年
古い文献であり、翻訳にちょっと難があるが、植民地期から南北分断期までの歴史を、北ベトナムと南ベトナムを対比しながら描いた好著。とくに旧南ベトナムの歴史について日本語で読めるものは多くはないので貴重。
- ティン・ティン(中川明子訳)『[ベトナム革命の内幕](#)』めこん、1997年
北ベトナムの高級幹部だった人物によるベトナム革命の内情を描いたもの。姉妹編として同じ著者・訳者の『[ベトナム革命の素顔](#)』(めこん、2002年)もある。

<人物史>

- 潘佩珠(長岡新次郎、川本邦衛編)『[ヴェトナム亡国史 他](#)』(東洋文庫73)平凡社、1966年

20世紀初頭の最も代表的な民族主義運動家の著作を編んだもの。東遊運動をはじめとする20世紀初頭の民族主義運動を理解するには必須の本。

○チャールズ・フェン (陸井三郎訳) 『[ホー・チ・ミン伝](#)』上下、岩波新書、1974年

数多くあるホー・チ・ミン伝の中で、ホー・チ・ミンと知己をえていた米人によって書かれている点が本書の特徴。

<政治・経済>

○白石昌也編著『[ベトナムの国家機構](#)』明石書店、2000年

ベトナムの国家機構を理解するのに基本的な文献。

○古田元夫『[ドイモイの誕生—ベトナムにおける改革路線の形成過程](#)』青木書店、2009年

ドイモイ路線がどのように採択されるにいたったのかを辿った研究で、ドイモイの背景を知るのに有用。

○トラン・ヴァン・トゥ『[ベトナム経済発展論—中所得国の異と新たなドイモイ](#)』勁草書房、2010年

2008年に低所得国を脱して中所得国になったベトナム経済が抱える課題とその展望について言及したもの。

○伊藤正子『[民族という政治—ベトナム民族分類の歴史と現在](#)』三元社、2008年

ベトナムの民族政策、とりわけ民族分類を知る上でかかせない文献。

<ベトナム戦争>

○小倉貞男『ドキュメント ヴェトナム戦争全史』岩波現代文庫、2005年

★図書館では [初版 \(1992年\)](#) を所蔵

ベトナム戦争の当事者だった高級幹部たちへのインタビューから構成されたベトナム戦争の歴史。

○遠藤聡『[ベトナム戦争を考える—戦争と平和の関係](#)』明石書店、2005年

まとまったベトナム戦争概説書としては一番新しいもので、バランスのとれた記述。

○今井昭夫・岩崎稔編『[記憶の地層を掘る—アジアの植民地支配と戦争の語り方](#)』御茶の水書房、2010年

ベトナム戦争の「戦争の記憶」についてまとめて議論している最初の文献。

<文学>

○阮攸 (竹内与之助訳) 『[金雲翹](#)』講談社、1975年

ベトナム古典文学の最高傑作。ベトナム人の世界観・感性を知るには、まずこの作品を読むことから。

○池澤夏樹編世界文学全集『[暗夜、戦争の悲しみ](#)』河出書房新社、2008年

はじめて世界文学全集にベトナムの作品が収録された画期的な本。現代ベトナムの代表的な作家のひとりであるバオ・ニンの『戦争の悲しみ』が収録されている。

(2013年7月 文責：今井昭夫)